

さいとう直子 活動の足跡です！

- 11/26 (水) 本会議開会
- 11/27 (木) 起業支援センター『オレンジキューブ』落成式
- 12/ 1 (月) 本会議
- 12/ 3 (水) 本会議 一般質問
- 12/ 4 (木) 本会議 一般質問
- 12/ 5 (金) 本会議 一般質問
条例検討委員会
- 12/ 6 (土) クリスマス会
- 12/ 7 (日) ラグビー協会 地域福祉祭
荒川のうたコンサート
- 12/ 8 (月) 文教・経済常任委員会
氷川神社・おかめ市
- 12/ 9 (火) 文教・経済常任委員会
条例検討委員会
中央産院忘年会
- 12/10 (水) 団会議 交通環境対策特別委員会
- 12/12 (金) 条例検討委員会
- 12/13 (土) 地域福祉計画会議
- 12/14 (日) 地域通貨イベント
- 12/15 (月) 本会議閉会
- 12/16 (火) 会派視察
- 12/17 (水) 会派視察
- 12/18 (木) 会派視察
- 12/19 (金) 戸田公園駅立ち
中央総合病院キャンドルサービス
- 12/20 (土) 住基ネット問題緊急シンポジウム
- 12/21 (日) まごころ国体参加づくり
OTODA
- 12/22 (月) 戸田公園駅立ち
- 12/23 (火) 市内音楽家交流会
- 12/24 (水) 戸田公園駅立ち
- 12/25 (木) 戸田公園駅立
- 12/26 (金) 戸田駅立ち
- 1 / 1 (木) 氷川神社初詣
- 1 / 6 (火) 団会議 賀詞交歓会
- 1 /11 (日) 消防出初式 OTODA
- 1 /12 (月・祝) 成人式
- 1 /13 (火) 団会議
- 1 /14 (水) 県南都市問題協議会視察
- 1 /15 (木) エコとだネット
- 1 /17 (土) 地域福祉計画会議
- 1 /18 (日) 後援会幹事会
- 1 /19 (月) 議会だより
「地域の学校」会議
- 1 /21 (水) 第一区市議会議員研修会
- 1 /22 (木) 交通環境対策特別委員会視察
- 1 /23 (金) 交通環境対策特別委員会視察
- 1 /24 (土) 「地域の学校」イベント
- 1 /25 (日) OTODA
- 1 /27 (火) 県議会海外視察問題要望書提出
団会議
- 1 /30 (金) 笹目小学校創立130年記念式典
- 1 /31 (土) 地域福祉計画会議 請願書検討懇談会
OTODA 打ち合わせ
- 2 / 1 (日) 社会福祉法人「ばる」
設立記念シンポジウム
- 2 / 2 (月) 戸田公園駅立ち 団会議
- 2 / 3 (火) 戸田公園駅立ち



11月27日 起業支援センター「オレンジキューブ」落成式

未来の起業家支援として設立された『オレンジキューブ』。市内外から応募があり オープンと同時に9起業家が誕生しました。職種は様々ですが、同じ屋根の下、連携をとりながら大成して欲しいと願っています。戸田の元気発信となりますように。



12月5日・9日・12日 条例検討委員会

議員提出議案となった「みんなでつくる犯罪のないまち条例」は、平成会の呼びかけにより、全会派賛同のもと条例のための検討委員会が設置され、そこで、様々な議論が交わされました。条例ができるまでのほんの一部ですが、立ち会え議決できたことで、条例の存在意義を実感しました。

1月24日 「地域の学校」イベント

社会教育委員の有志で企画された『地域の学校』では、美女木小学校の体育館を利用し、1～6年生までの小学生を中心に地域の方々によるカルタ大会が開催されました。3人一組のチーム同士の対戦で、中には6年生対1年生チームとなったところもあり、上級生にかなわない1年生が思わず涙ぐむシーンもありましたが、その様子を見た対戦チームの6年生が場所をさりげなく教えてやり取らせてあげるようなじーんとする場面もありました。『地域の学校』ならではの光景で地域のコミュニケーションのきっかけづくりになりそうです。



1月27日 県議会海外視察問題要望書団会議

この問題が風化しないよう、戸田市議会の女性議員に声をかけ、賛同して下さった方々と県議会を訪ね、議長に直接会い、要望書を提出してきました。その後、戸田市議会でも「逸脱行為の真相究明と関係議員の出处進退の決断を求める決議」を全会一致で可決しましたが、依然として、この問題は納得のいかないままです。詳しくは私のホームページを御覧下さい。皆さんからの様々な意見が寄せられています。



戸田市議会議員 さいとう直子の 市政レポート Vol.12



さいとう直子事務所 〒335-0023 戸田市本町 5-2-20-1104 TEL.& FAX. 048(441)3625
ホームページ <http://Naoko-Sai.to> 直メール naoko@naoko-sai.to

「オリンピック」に「国体」と躍動感でいっぱいになりそうです。



平成 15 年戸田市定例会 12 月議会での一般質問

保育園等の子育て支援策で 保育園の現状や3歳児以上の完全給食について質問し、次代を担う子どもたちを地域で守り育ててゆく仕組みづくりを要望しました。(2・3頁をご覧ください)

報告第 12 弾！ 市議としての体験報告です。

市議になって様々な現場に出かける機会をいただき、多くの方と出会い、色々な経験をさせていただいています。まだまだ教えていただきたいことはいっぱいですが、少しでも私を通して議員活動を知っていただければと報告しています。皆さんからの貴重な意見を頂戴しますと、やる気倍増！これからもあちこち走り回りますので、見かけたときは気軽にお声をおかけ下さいね。(4頁をご覧ください)

NEWS 「花の里親」募集中！

まごころこめて育てた花で とだを訪れる選手や観客のみなさんを“いっしょに おもてなし”してみませんか？『彩の国まごころ国体』がいよいよ迫ってきました。9月11～14日まで戸田公園のポート競技場で行われます。そこで、戸田公園駅から会場まで花でいっぱいのプランターを、道案内役として飾ることを『エコとだネット』で計画し、只今、花の里親として4月29日～9月5日まで育てて下さる方を募集しています。

内容は、4月29日に市役所駐車場にて、花を育てるためのプランター、花苗、赤玉土と培養土(小中学校のコンポストや公園の腐葉土でできた純戸田産もの!)を受け取り、9月5日の回収日まで育て、国体終了後には希望により戻ってきます。申し込みは、市役所や粗大ゴミ収集券取扱店で行っています。また、様々な場所で国体のお手伝いをさせていただくボランティアの募集も受付ています。

問合せ 彩の国まごころ国体戸田実行委員会 TEL 430 - 0202

後援会の集いを5月16日(日)14時から上前公民館において開催予定です。



保育園等の子育て支援策について 一般質問しました

【これまでの子育て支援策】 児童福祉法を基本に、「福祉」の考え方にに基づき、対象者、家庭を限定し低所得者が中心に行われてきました。

【現在】 女性の社会進出が進み、保育園を利用する世帯は急速に増加し保育園の利用は一般化しています。

【これからの子育て支援策】 所得や職業、働き方の違い、家族形態等で区分されることなく、全ての親子を対象に必要な応じたサービスなどの提供を目指すべきと言えますが、子どもの幸せという視点で考えれば、親の負担を減らすための一方的な支援ではなく、親子のきずなを深め、親の子育て力を高めるような支援や親自身の主体的な取り組みを促す支援策を充実させることが必要で、そのかじ取り役的な役割が保育園に求められているように思います。

戸田市の待機児童数、 入所申請の際の条件と保育時間について

《厚生労働省》平成 14 ~ 16 年度 仕事と子育ての両立支援策「待機児童ゼロ作戦」を開始。15 万人の受け入れ児童数を目標。

《戸田市》【待機児童】 4 月 1 日に戸田公園駅前と戸田駅前に開園する民設民営保育園の定員が 150 名であることから 100 人前後の待機児童が改善される見込みとの回答でした。(実際のところ、待機者 24 名・80 名分余剰 3 / 8 現在)

	0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	合計
待機	3 名	15 名	0 名	4 名	1 名	1 名	24 名
余剰	19 名	6 名	10 名	4 名	27 名	14 名	80 名

* 原因は、希望場所が集中していることにあります。

【保育時間】平日 8:30 16:30 土曜 8:30 12:30

保育園名	特例	延長	超延長	年齢	障害児	一時
下戸田				1 歳~		
新曽				生後 6 ヶ月~		
上戸田				1 歳~		
喜沢南				生後 6 ヶ月~		
笹目東				1 歳~		
上戸田南				生後 6 ヶ月~		
新曽南				生後 6 ヶ月~		
こだま				生後 6 ヶ月~		
笹目川				生後 6 ヶ月~		
きざわ				生後 3 ヶ月~		
あけぼの				生後 8 週~		
ささめ				生後 6 ヶ月~		
戸田駅前				生後 8 週~		
戸田公園駅前				生後 8 週~		

* 平成 16 年 4 月から喜沢南保育園と笹目川保育園のゼロ歳児の延長保育を実施予定。

【入所基準】 保護者の就労または疾病・母親の出産・同居の親族の介護等で日中の保育に欠けること。
* 新年度から子育ての支援の一つとして、求職中でも入所申し込みができる(入所後 1 ヶ月程度で就労先を決定)ようになったと回答がありました。

一時保育と子育て相談の利用状況について

子ども達を取り囲む環境が 大きく変化。

核家族化の進行や父親の長時間労働
近隣関係の希薄化など子どもをめぐり地域ネットワークが弱体化
育児の負担が母親にのしかかり、母子 2 人きりで一日を過ごす「育児の孤立化」といった状況

「育児の自信がなくなることがある」(平成 9 年度調査)
共働き家庭 46.7% 専業主婦家庭は 70%
共働きの母親よりも専業主婦の育児不安が多い

考えられる原因

孤立した形で 24 時間子どもと向き合っている
現在の母親たちは、兄弟姉妹の減少などにより、乳幼児とのふれあいの経験がなく、実際の子供との接触経験や育児経験が不足している
出産により、仕事をやめたり、趣味の活動時間を減らしたりと生活が変化しがち
家族関係や子育てにかかる支援の欠如といった心的要因によるストレス

こうした状況は、子どもの成長に悪影響を及ぼすことも心配されています。

全国の児童相談所で受けた児童虐待相談件数
2001 年度 23,274 件

平成 14 年度は、児童虐待防止法が施行される前の平成 11 年度と比較して、約 2 倍に増加しているそうです。その結果、深刻な育児不安や、ゆがんだ子育て、児童虐待や、子どもによる犯罪など、深刻な事件に結びついているとの指摘もあるようです。

子どもを取り巻く環境の変化に対応して、保育園には、地域における子育て支援のために、一時的な保育や、乳幼児などの保育に関する相談に応じ、助言するなどの社会的役割も必要となってきています。そこで、現在の市内での一時保育と子育て相談の利用状況について質問しました。

【一時保育】

傷病・入院、就労時間等により、緊急一時的に保育が必要になった場合に利用する制度。利用者は 1,693 名(H12) 2,030 名(H13) 2,726 名(H14) と年々増加していることから、駅前 2 園の新設保育園でも実施をお願いし、市内全域で定員 30 名 50 名へ増員。また、母親の育児疲れの解消、心身のリフレッシュ等を図る等、子育て中の母親等のリフレッシュ保育を新たに加え、公立 3 ヶ所と私立 2 ヶ所で実施予定。

【子育て相談】 公立保育園全園で実施

喜沢南保育園、笹目川保育園、きざわ保育園、あけぼの保育園で行っていて、育児に関する悩みや不安についての電話相談・来園相談等の子育て支援センター事業の相談件数も年々増加。特に、家庭児童相談が増加し、その相談内容も複雑化・多様化。

保護者の精神障害から来る養育困難
虐待ドメスティックバイオレンスなど
ある程度悩みはあるが相談することで育児不安が解決するという育児相談。相談件数は 683 件 942 件 1243 件(H12 ~ 14 年)と増加しているとのこと。

戸田市児童育成計画や、今後スタートする次世代育成支援対策の市町村行動計画をも見据えて、子育て支援対策を進展させるとともに、この相談事業の体制強化を図るべく、専門の相談員等の配置も視野に入れて検討し、地域で安心して子育てができるように、また、買い物帰りなどに気軽に相談ができるように、新設の駅前保育園 2 ヶ所でも、相談事業を実施するとのことでした。

保育園における 3 歳以上の主食持参の現状について

飽食の時代と言われながら、子どもたちの中には発育・発達に必要なエネルギーが摂取できていない、必要な栄養が取れていないといったような問題があると言われています。

朝食をきちんととらない

数年前まで中学生・高校生問題

小学生・就学前の子供達まで広がっている

子供の肥満 小学生 約 1 割

思春期の問題 拒食症、過食症等心の問題と関連

子ども時代の食の問題は、子ども時代だけでなく、大人になってからもあり、生涯を通じた健康上の問題につながっていることがわかってきて、専門家の中には危機感を持っているようです。また、家族がそろって食事をするという機会がだんだん減ってきており、家族の人間関係が大変希薄になっているという面も問題にあるように思います。

保育園では、子どもたちは、とっても楽しそうに食べています。保育園でこういう経験をしていれば、家族や友達と一緒に食べるということが楽しいということ、体験として、子どもの心の中に残ると思います。御飯と一緒に、保育士さんやお母さんの愛情と一緒に、安心と安らぎの中で食べているということが実感できるような、ごく日常的な食事のあり方が大切に思います。食卓は人間関係を育む場であり、心を育てる場といえます。乳幼児期の食事というのは、将来のよい食生活の基礎になるということから、保育園での給食は大変重要な意味を持っていて、将来に向けた、正しい食生活習慣形成も、保育園に求められる大切な役割の一つになっているように思います。

給食をみんなで楽しむという目的で子どもたちのことを考えると、主食持参に少し疑問も出てきているようです。例えば、朝の忙しい中での準備のため、時には前日の御飯をお弁当に詰めることもあったり、中には、コンビニなどで買い与えた御飯であったりすることで、子どもたちの様子に微妙な心理状態が感じられるようです。

もし、主食もトータルで考えることができると、季節や行事に合わせた混ぜ御飯など、副食に合わせることができ、楽しみの幅も広がるかもしれないという現場の声もあります。そこで、給食の、3 歳以上の主食持参の現状について質問しました。

現在、国の保育所運営国庫負担金制度に基づき

《3 歳未満児クラス》 乳児の離乳食、主食 [御飯・パン・めん類など] 副食 [おかず・味噌汁等]

《3 歳以上児クラス》 副食のみ提供 主食は保護者が御飯やパン等を用意。

3 歳以上児の完全給食の実施については、これまでもいろいろな声や論議がありましたが、幅広い子育て支援の観点から、完全給食を実施すべき時期を迎えていると判断。実施の時期・実施方法については、計画的かつ早期に全園での実施の準備を進めていきたいとの回答でした。実施していくためには、調理室等の設備、人員、備品、消耗品等の整備という問題があるので、今後、保育園の改修工事等を一園ずつ着実に実行し実施体制が整った所から完全給食を実施とのことです。

次代を担う子どもたちを地域で 守り育ててゆく仕組みづくりを要望

戸田市が子育てに力を入れて取り組んでいることを理解し、保育園が今後も子育てという専門性を生かしながら、地域や家庭に身近で親しまれる存在となり、地域の子育てを支え助ける子育て広場として開かれた存在になっていくことを強く願うとともに、次代を担う子どもたちを地域で守り育ててゆくことの必要性を感じました。

そのためにも、高齢者と赤ちゃんと一緒に過ごす等、様々な世代の交流の機会を設ける取り組みや、商店街などの空き店舗・学童教室の午前中空いている時間を活用する等、各種の子育て支援サービスの提供も重要で、そこに子育て経験のある方や退職された保育師・看護師さん等を子育てサポーターみたいな形で配置ができればと要望するとともに、完全給食については親子との触れ合いの時間が少しでも多くなることで幸せいっぱい戸田っ子たちの笑顔が増えることを願いました。

